

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24220012	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	国際市場を前提とする服飾造形とテキスタイルの設計提案に関する技術的経営的研究	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	高寺 政行 (信州大学・学術研究院繊維学系・教授)

【平成27年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究では、繊維工学、被服学・服飾造形学、感性認知情報学、商学・経営学の知見と統合し、1) テキスタイルの設計過程や製造工程の知見、服飾設計特徴の整理、認知的限界の開示、情報の標準化、2) ファッション製品の製造工程における裁量とその効果の解明、3) テキスタイルプレゼンテーション・製造工程に関わる情報収集と以上の成果を基にしたテキスタイルシミュレーションシステム(テキスタイル提案システム(TPS))を構築することを目的としている。1)と2)の目的については、成果が得られていると判断できる。3)の目的であるTPSシステム構築・評価(V&V評価)及びTPS活用については、研究進捗状況報告書では不明であったが、現地調査を行った結果、TPSシステム構築・評価(V&V評価)及びTPS活用は順調に進められていると判断できた。

【平成29年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	本研究では、世界市場における日本のファッション衣料のプレゼンス改善のため、繊維工学に関連分野の知見を統合し、国際的に実績ある事業者及び商品を対象にした現地調査と製作実験を行い、テキスタイルと服飾の設計過程・製造工程・販売に関する技術経営的研究から国際化に重要な要件を明らかにした。さらに、この成果を用いてテキスタイル提案システム(TPS)を構築し、海外市場での使用を想定した日欧のデザイナーによる評価実験を実施した。その結果、実用性、有効性が確認された。また、多数の論文報告及び2件の特許出願もあり、従来の繊維工学的見地の研究では解決し得ない日本のファッション事業の国際化に寄与した。